

[表紙] 江戸時代初期に描かれた下北半島
江戸幕府の命により盛岡藩が描いた350年前の
古地図。仏宇多（仏ヶ浦）の景観や田名部山
（釜臥山）の姿がリアルに描かれている。
（盛岡市中央公民館所蔵）



市章

ひらがなの「むつ」を図案化し、
融和と飛躍発展を象徴化したもの
である。（昭和35年11月1日制定）

市制施行50周年・合併5周年 むつ市勢要覧

- 発行日 2009年9月
- 発行 むつ市
〒035-8686
むつ市金谷一丁目1番1号
（移転後：むつ市中央一丁目8番1号）
TEL (代) 0175-22-1111
- 編集 企画部企画課
- 印刷 (有)大湊印刷





人と自然が輝く やすらぎ



と活力の大地 ^{むつ} 陸奥の国

目次

発刊によせて 1	市民協働の施策展開 2 1
むつ市の概要 2	地域コミュニティの構築 2 1
合併までの道のり 4	交流 2 2
旧 3 町村のあゆみ 5	保健・医療の充実 2 3
観光の振興 7	福祉の充実 2 5
特色ある地域産業の育成 9	教育の充実 2 7
個性豊かな地域文化の伝承と創造 1 3	男女共同参画社会の形成 3 1
文化財 1 5	安全で安心な環境の充実 3 2
豊かな環境の創造 1 7	新たな行財政システムの構築 3 3
海洋科学研究拠点の形成 1 8	議会 3 4
一体的な地域の形成 1 9	自衛隊 3 5

花・木・鳥

平成 21 年 9 月 1 日制定

花



はまなす

木



ひば

鳥



はくちょう



～発刊によせて～

緑豊かな自然に恵まれた本市は、先人たちのたゆまぬ努力と献身により幾多の試練を乗り越え、下北半島地域の中核都市として発展を遂げてまいりました。しかしながら、昨今の金融危機、経済の低迷、雇用不安など社会情勢が変化し、柔軟な行政経営が求められています。こうした中、長期総合計画で掲げております「人と自然が輝く やすらぎと活力の大地 陸奥の国」の実現のため、「地域の個性を活かした特色あるまちづくり」、「市民参加による一体的な新しいまちづくり」、「人が生き生きし安心して暮らせるまちづくり」を着実に進めてまいりたいと考えております。

今年市制を施行して50周年、また、合併し新たな市としても5周年という節目の年にあたり、ここに「市勢要覧」を発刊いたしました。

本要覧を通じ、次の半世紀へ向かって飛躍するむつ市の姿をご理解いただければ幸いと存じます。

平成21年9月

むつ市長 宮下 順一郎

むつ市の概要

位置・地勢・気候

本市は、本州最北端、青森県北東部の下北半島に位置し、南北約35キロメートル、東西約55キロメートルにわたっており、東に東通村、南に横浜町、北・西に大間町、風間浦村、佐井村の2町3村に接しています。

また、本市は三方が海に面しており、北は津軽海峡を隔てて北海道を望み、西に平館海峡、南に陸奥湾を抱えています。

面積は、青森県全体の約9%にあたる約864平方キロメートルで、恐山山系の外輪山を形成する釜臥山を中心とし、東部は平野など比較的なだらかな地形が広がり、北部・西部は自然に溢れ、緑豊かな山地や台地が海岸近くまで迫る山岳地形となっています。

気候は、四季がはっきりとしており、夏季は短く温暖で湿度が低いことから比較的過ごしやすくなっていますが、冬季は降雪期間が長く最大積雪が山間部で1メートル以上、平野部や海岸部では約70センチメートルに達するなど、厳しい気象条件となります。

一方、広範にわたる地域が下北半島国定公園に指定されており、「恐山」、「川内川溪流」などの景勝地や、「湯野川」、「薬研」などの温泉が点在するほか、「陸奥湾のホタテ」、「津軽海峡のイカ」など海の食材が豊富にあり豊かな自然の恵みを受けた地域となっています。



海底林が発見された川内地区田野沢海岸

大畑地区二枚橋(2)遺跡から出土した土面



歴史 一古代～近世一

「縄文のまほろば」といわれる青森市の三内丸山遺跡が全国的に有名になりました。陸奥湾を隔て向かい合う本市もまた縄文文化の宝庫です。市内に点在する多数の遺跡から太古の人々の旺盛な生活力を感じることができます。

中世にかけて下北半島は糠部郡(ぬかべのこおり)宇曾利郷(うそりのごう)と呼ばれ津軽の安東氏の支配下にあったとされています。その後、次第に南部氏が勢力を強め「蛸崎の乱」が平定されてからは南部氏の支配が確立されていきました。

近世に入り、当初田名部(下北一円)は八戸(根城)南部氏の支配下にありましたが、慶長19年(1614年)領主の南部直政死没後、盛岡南部氏の「預かり」となって以後、明治維新に至るまでその宰領が続くこととなります。盛岡南部氏にとっても、豊かな木材資源・海産物や海港を擁する下北は魅力ある土地であったと思われ、田名部七湊と称された下北地方の諸港は上方や北海道に開かれた窓口となりました。

歴史 - 近代～現代 -

明治22年の市町村制施行により、現在のむつ市の原型が形成されました。田名部村、大湊村、川内村、大畑村、脇野沢村が誕生し、田名部村は明治32年、川内村は大正6年、大湊村は昭和3年、大畑村は昭和9年に町制を施行しました。

下北地方の政治、経済、交通の中心地として成長してきた田名部町と、海軍の街として発展し戦後は自衛隊の基地が置かれている大湊町は、下北地方の中核都市として人口10万人の田園工業都市を目指して合併し、昭和34年9月1日に「大湊田名部市」が誕生しましたが、翌年の8月1日に全国初のひらがなの市「むつ市」に改称しました。

その後、下北半島を一周する道路の国道への昇格（国道279号、国道338号）、原子力船「むつ」（現在は、世界最大級の海洋地球研究船「みらい」）の関根浜新母港の完成をはじめ、各種基盤整備を行うことにより、下北地方の中核都市として産業、交通、福祉、環境等総合的な都市基盤の整備と就業機会の拡大や所得水準の向上に努めてきました。



脇野沢・川内方面より釜臥山を望む

このような中、平成17年3月14日に、ホタテ養殖等の漁業を中心としたまちづくりを進めてきた川内町、室町時代から続いているヒバ材搬出等の林業やイカ漁を中心とした漁業等によりまちづくりを進めてきた大畑町、マダラとともに歩みまちづくりを進めてきた脇野沢村の3町村と合併し、新しいむつ市が誕生しました。

新「むつ市」の将来像『人と自然が輝く やすらぎと活力の大地 陸奥の国』の実現に向けて、着実に歩みを進めています。

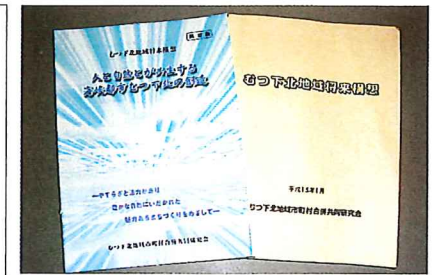
むつ【陸奥】

①→みちのく。②旧国名。1869年（明治元年）12月、磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥に分割。分割後の陸奥は、大部分は今の青森県、一部は岩手県に属する。③（「むつ」と書く）青森県北東部、下北半島の市。霊場恐山（おそれざん）がある。人口6万4千。→大湊（おおみなと）

（広辞苑 岩波書店）

合併までの道のり

- 平成14年5月29日 ◎むつ下北地域市町村合併共同研究会の設置
（むつ市・川内町・大畑町・大間町・横浜町・東通村・風間浦村・佐井村・脇野沢村）
○むつ下北地域将来構想を作成
- 平成15年3月24日 ◎むつ下北地域任意合併協議会の設置
（むつ市・川内町・大畑町・大間町・横浜町・風間浦村・佐井村・脇野沢村）
○協議会5回の開催 ○北上市への視察研修
- 平成15年10月31日 ◎むつ下北地域合併協議会の設置
（むつ市・川内町・大畑町・大間町・横浜町・風間浦村・佐井村・脇野沢村）
○協議会10回の開催 ○第10回協議会で大間町の離脱を了承
- 平成16年6月8～9日 7市町村（むつ市・川内町・大畑町・横浜町・風間浦村・佐井村・脇野沢村）での協議会設置議案を横浜町・風間浦村・佐井村が否決。
6月23～28日 むつ・川内・大畑・脇野沢合併協議会設置議案の可決
- 平成16年6月29日 ◎むつ・川内・大畑・脇野沢合併協議会の設置
○協議会9回の開催（平成16年7月～平成17年2月）
- 平成16年10月22日 ◎合併協定調印式
10月25～27日 ◎廃置分合、財産処分、議会議員の在任の合併関連3議案の可決
- 平成16年10月29日 ◎県知事に合併申請
- 平成16年12月16日 ◎知事より廃置分合決定書の交付
◎青森県議会市町村合併議案の可決
- 平成16年12月17日 ◎県知事が総務大臣へ廃置分合決定の届出
- 平成17年1月18日 ◎官報告示
- 平成17年3月14日 ◎新「むつ市」誕生 ☆合併記念式典



研究会で作成したむつ下北地域将来構想




協議会設置の調印をする市町村長



調印後、握手する市町村長と副知事



旧3町村のあゆみ

川内町		<p>川内町が、いつの世にあっても飛翔伸展の姿勢をとることを願って。三本の翼は誠実・勤勉・奉公と農・林・漁をあらわし、全体で川内を組み合わせたものである。 (昭和42年7月18日制定)</p>
------------	---	--

町のシンボル 花-アジサイ 鳥-ハクセキレイ 木-ヒバ

町のなりたち

川内町は、中世の陶磁器が出土するなど安東氏や蛎崎氏の伝説が眠る歴史ロマンの地でもあります。江戸時代には木材や海産物を移出し港町として発展し、明治22年に川内、桧川、宿野部、蛎崎の4ヶ村が合併し川内村が誕生しました。大正時代には安部城鉱山をはじめ諸鉱山の発展により人口も13,000人台となるなど活況を呈し、大正6年に町制が施行され川内町となりました。

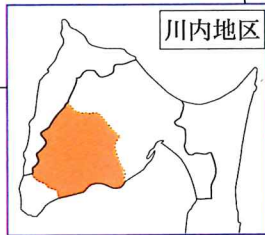
その後、鉱山の閉山や昭和の苛烈な戦争時代を経て、近年はホタテ養殖に代表される漁業や森林資源を活用した特産品づくり、川内ダム周辺整備による新名所づくり、「川柳大賞」創設など様々な町おこしを進めてきました。




川内庁舎



川内ダム



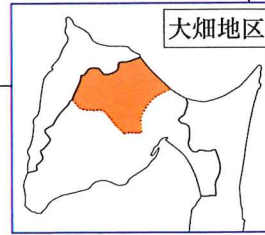
大畑町		<p>大畑町町制施行30周年を記念して、昭和38年広く一般から募集し、その中から選ばれた作品で、オオハタの「オ」を天空にはばたく鳥をなぞらせ、町勢将来への力強い発展を表すとともに、円満・融和・団結を表現したものである。 (昭和38年11月制定)</p>
------------	---	--

町のシンボル 花-さくら 鳥-かもめ 木-ひば

町のなりたち

大畑町は、江戸時代以前より南部桧の積み出しが盛んに行われたところから発展しましたが、江戸時代には南部藩の代官所も置かれ、幕末期は北方警備の重要拠点でもありました。

明治22年の町村制施行では正津川村を包含し大畑村となり、この頃の人口は3,392人と記録されています。



大正14年に発動機船が導入され、いか釣漁業に一大転機がもたらされ、以降、津軽海峡という国内有数の好漁場に恵まれたこともあり、主にイカー一本釣りとし水産加工業を主力産業とし、「いかの町」として地域の経済を支えてきました。そして、昭和9年、町制を施行し大畑町が誕生しました。


近年は、大畑町は95%を占める森林、恵みをもたらす豊かな海や川を大切にし、この尊い自然資源を次世代に引き継ぐための「まちづくり」を目指して、様々な事業に取り組んできました。



大畑庁舎



ヒバ林

脇野沢村		<p>ワの頭字を飛鳥のイメージにデザインした村章で、下北半島西海岸の波を中心に、自然と産業文化の向上飛躍を希望ゆたかに象徴した脇野沢飛躍の姿である。 (昭和46年12月制定)</p>
-------------	---	---

町のシンボル 花-さくら 鳥-かもめ 木-ひば 魚-たら

町のなりたち

脇野沢村は、江戸時代からヒバ材や真鱈の積出港として栄えたところです。

明治22年の町村制施行により、脇野沢と小沢の両村が合併し新たな脇野沢村として誕生して以来、一世紀以上にわたり村の歴史を刻んできました。

脇野沢といえば「鱈の里」として知られ、戦時中の豊漁時には村民の寄附により航空機を献上したほどでしたが、近年は漁獲量が減少していることからホタテやクロソイの養殖など育てる漁業やイノシシ飼育など産業基盤の強化に取り組んできました。

また、特別天然記念物の「ニホンカモシカ」、天然記念物の「北限のニホンザル」の生息地としても知られていますが、その保護と被害対策が大きな課題となっています。



脇野沢庁舎



北限のニホンザル(天然記念物)



観光の振興

多様な地域資源を有する本市にとって、観光は地域資源を活用した経済活動を生み出す上で重要な戦略となります。広域で豊かな自然資源を活用した第一次産業を最大限に活かし時代に合った多様な観光振興を図ります。

春 鯛島と桜



かわうちまりんビーチ 夏



釜臥山展望台 遠く北海
まさかり
道まで見渡せ、下北半島が
の形であることを実感できます。



冬 釜臥山と白鳥



★下北観光協議会は下北半島地域6市町村（むつ市、大間町、横浜町、東通村、風間浦村、佐井村）と民間団体で組織し、広域での観光振興のため様々な事業を実施しています。

★下北半島観光ポータルサイト「ぐるりんしもきた」は下北観光協議会が運営しています。



かっぱの湯、薬研 秋

【背景】
釜臥山からの夜景
宝石をちりばめた巨大なあげは
蝶が夜空に羽ばたく様に喩えら
れます。

特色ある地域産

農林水産業の振興

青森県で面積が最も広く、三方を海に囲まれ豊かな自然を誇る本市は多種多様な農林畜水産物に恵まれた食中、基幹産業として市の経済を支え、地域の食文化を育んできた様々な食材にスポットをあて「むつ市のうま



新しい取り組みでブランド化を目指している一球入魂かぼちゃ



引き立つ甘みととろける食感の陸奥湾産ホタテ



津軽海峡の激しい潮流でもまれ脂ののった「海峡サーモン」



野平地区高原レタス

業の育成

あ
むつ市のうまは日本一!

の宝庫です。食に対する関心がこれまでになく高まっているいは日本一！」を合言葉に振興を図っています。



本州最北のサンマルモリナリーで醸造される「下北ワイン」



「むつ市のうまは日本一！」を応援するキャラクター“ムッシュ・ムチュラン1世”
安心・安全なうまいものを探し下北中を走り回っている



大畑の新鮮なヤリイカ



夏季涼やかな気候に適した夏秋イチゴ「ペチカ」



長い歴史と伝統を有する、脇野沢の鱈

【背景】毎年12月初旬に行われる鱈漁の“場取り”は、脇野沢の冬の風物詩となっています。

商工業の振興

消費者ニーズの多様化やモータリゼーションの進展により、コンビニエンスストアや大型店などの進出が進み、地域における商業形態が大きく変化しつつあります。このような中、高齢化にも対応するなど地域に密着した魅力ある商店街づくりが求められています。

地域の特性を活かした地場製品の製品開発や付加価値の向上などに取り組む企業のほか、広く地域産業の振興に資する各種の商工団体と連携し商工業の振興を図っています。



次々と進出する郊外型大型店



旧町時代の面影を残す大湊駅前通り

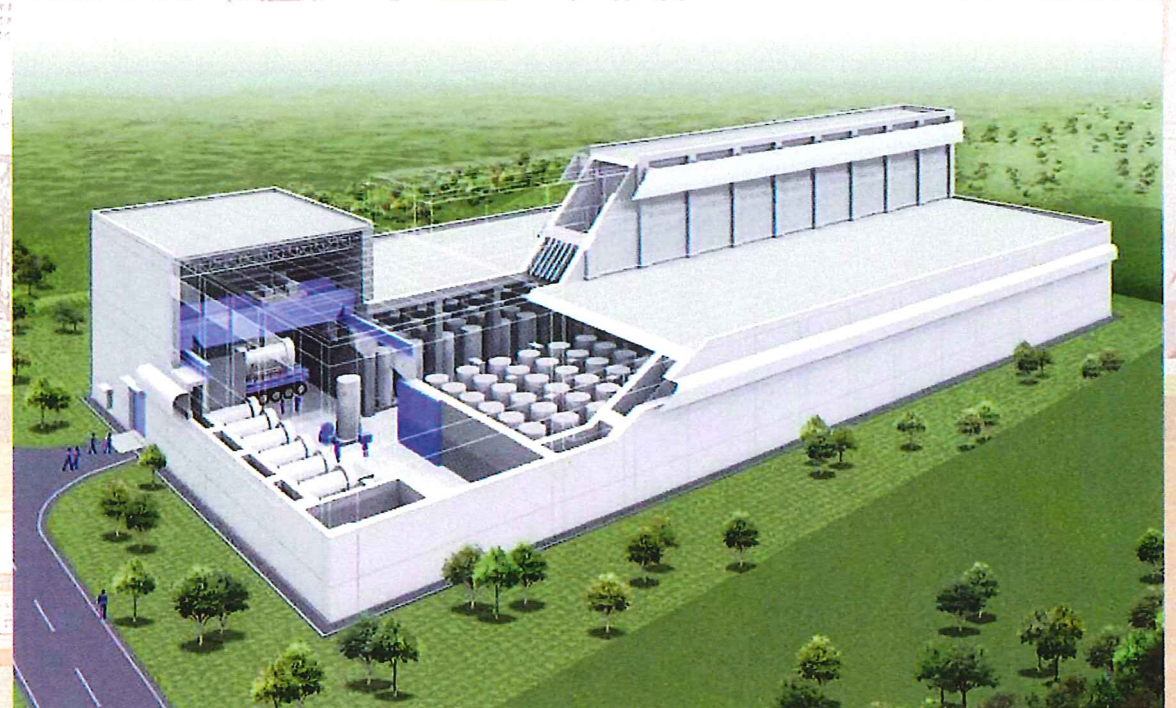


来さまい館やイベント広場を主会場に開催された産業まつり

エネルギー関連産業の育成

下北半島は、世界的にも類を見ないエネルギー産業の集積地として発展を遂げつつあります。本市では、原子力発電所で使用した使用済核燃料を一時的に貯蔵する国内初の施設である「使用済燃料中間貯蔵施設（リサイクル燃料備蓄センター）」の建設計画が進められており、隣接する町村においては既に稼働中の原子力発電所のほか、更なる建設も計画されています。また、良好な風況を利用した風力発電所の立地や拡張も盛んです。

これらのエネルギー関連産業と連携し、新たな雇用機会の創出・拡大や地域産業全体を活性化するための取組が求められています。



リサイクル燃料備蓄センター貯蔵建屋イメージ（提供：リサイクル燃料貯蔵株式会社）



大間原子力発電所の完成予想図（提供：㈱電源開発大間現地本部大間原子力建設所）



東通原子力発電所（提供：東北電力株式会社）

個性豊かな地域文化の伝承と創造

田名部まつりをはじめとして、地区ごとにさまざまな祭典や伝統文化が根づいており、それが地域の特色を形成しています。このような伝統文化を積極的に伝承しながら新たな文化を創り上げていくことが求められています。これまで培われてきた文化的な蓄積を大切にするとともに、新たな文化を積極的に創造することで人の心が豊かになる地域を築くことを目指します。

地域文化の発掘創造及び保存伝承

食文化の発掘



無形文化財 田名部の山車行事



大湊ねぶた



無形文化財 川内の山車行事



無形文化財 大畑の山車行事



無形文化財 脇野沢の山車行事



じゃっぱ汁



けいらん



子どもネプタ会場で市長と握手を交わす
ムッシュ・ムチュラン1世
「美味しいもの、良いものがいっぱいじゃ〜!!」



みそ貝焼き (みそかやぎ)

文化財



国指定重要文化財 木造阿彌陀如来坐像
 大正4年3月国宝に指定され、下北地方唯一の重要文化財となっています。本尊は漆塗りで京都大本山清浄華院（現在の京都市左京区北の辺町）から拜領。作者は天台宗の大学者、恵心院僧都源信といわれています。（常念寺所蔵）

県指定文化財 如来立像（円空作）
 円空は23歳の頃出家し、12万体の造仏の祈願をかけた諸国を遍歴しました。当市に残る仏像は48歳（寛文8年）頃の作品。（常楽寺所蔵）



県指定天然記念物 大湊湾の白鳥



市文化財収蔵庫
 （旧海軍石造宿舎「金剛寮」）



市指定有形民俗文化財 木造和漁船
 木造和漁船及び付属船具と漁具は、脇野沢九艘泊地区の漁業者である榎引鉄五郎氏の遺志により寄贈されました。
 昭和23年頃まで、この地方の沖合には、このように帆を張り、櫓を漕ぐ漁船が数多く見られました。

脇野沢九艘泊：猿の住む海浜公園「船小屋休憩所」に公開展示



県指定有形文化財 二枚橋(2)遺跡出土品(一括)より
 平成9年に発見された二枚橋地区の遺跡は、発掘調査の結果、縄文晩期後半のもものとされます。土器の形や文様が北海道南部と共通する点があり、北海道との交流を示す重要な資料とされています。（むつ市所蔵）



市指定有形文化財 川内風景図屏風土岐蓑虫（蓑虫山人 ミノムシサンジン 筆）
 川内町中心部にある曹洞宗寺院泉龍寺に明治中期の画家蓑虫山人が描いた川内風景図屏風が保存されています。蓑虫山人は全国各地を放浪しましたが、青森県には長期滞在し青森県の近代化を今に伝える貴重な資料となっています。

〔背景〕 県重宝に指定されている旧海軍大湊要港部水源地堰堤

豊かな環境の創造

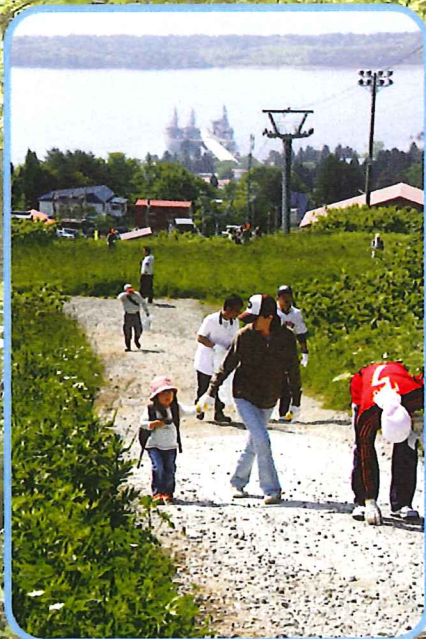
本市は、特別天然記念物に指定されているニホンカモシカや天然記念物のニホンザルなどが生息し、豊かな自然環境に恵まれています。今後も、環境の保全に努めていくとともに、恵まれた条件を積極的に活用しながら発展していくことが求められます。このため、環境に配慮した地域整備を行い、人と自然が共生しあう豊かな環境の創造を図ります。



むつ市大畑町「植樹祭」(大畑奥薬研三階滝地区)



下北森林管理署「植樹祭」(脇野沢源藤城地区)



むつロータリークラブ釜臥山清掃登山



N・P・O法人GEMBU「ふるさとの森・1万本植樹祭」(川内畑地区)

【背景】しもきた春もみじウォーク、川内川渓谷遊歩道

海洋科学研究拠点の形成

海洋地球研究船「みらい」は、本市の関根浜港を母港として地球温暖化など環境変動を解明・予測するため世界の海洋を舞台に活躍しています。また、「みらい」の運航サポートや研究を行う独立行政法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)むつ研究所をはじめ、日本海洋科学振興財団むつ海洋研究所、日本原子力研究開発機構青森研究開発センターむつ事務所が立地し、海洋研究に関する幅広い分野での研究拠点が整備されています。このような拠点としての機能を強化するとともに、関連する研究機関や産業の育成を進めます。



平成20年6月15日に一般公開された「しんかい6500」

海洋地球研究船「みらい」の母港となっている関根浜港。手前に見えるのが「むつ科学技術館」



海洋地球研究船「みらい」

画像提供 (独)海洋研究開発機構(JAMSTEC)

一体的な地域の形成

広大な行政区域を持つ本市は各地域間の距離が長く、住民の一体感、連帯感の醸成のためには交通基盤、情報通信基盤などの整備による距離感、隔絶感の解消が重要です。市内全域が一体的な地域として機能し発展するために、道路基盤の整備、公共交通の確保、広域交通ネットワークの形成、電子自治体の推進という4つの柱により施策を推進しています。



地域公共交通活性化協議会



完成した国道338号むつバイパス水源池大橋



整備が進む下北駅前



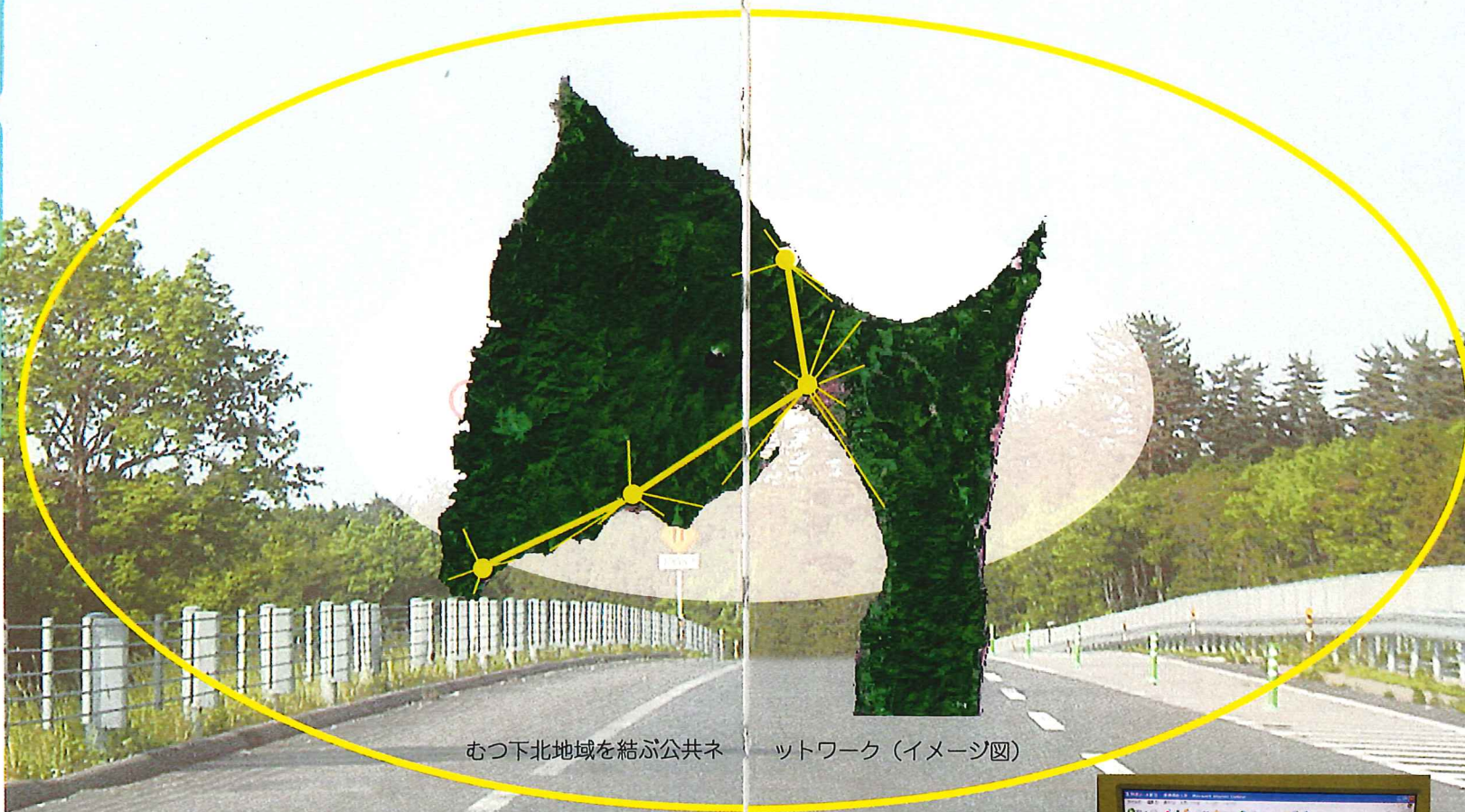
地域の「足」を担う路線バス



野辺地北 5 km
Noheji-kita

むつ 51 km
Mutsu

恐山 64 km
Osorezan



むつ下北地域を結ぶ公共ネットワーク（イメージ図）

下北半島縦貫道路
計画図：全長60キロのうち有戸・野辺地バイパス13.2キロは開通し、むつ南バイパス全長9 kmが整備区間に指定されています。

【背景】無料供用中の野辺地・有戸バイパス



青森～脇野沢～佐井を結ぶ高速旅客船「ポーラスター」



防災メール配信サービス



エリア拡大し、市の大部分をカバーしているコミュニティ放送FMアジュール

市民協働の施策展開

市の主役は市民一人ひとりであり、市民の主体的な活動や交流等を支援します。

また、市民参加のまちづくりを推進し、市民や各種団体等と行政との協働による施策を展開することにより、新たな地域経営のしくみを構築します。



おでかけ市長室（大湊地区）



下北未来塾

地域コミュニティの構築

市民主体のまちづくりの基礎となる地域コミュニティについて、その機能の充実を目指します。



川内地区婦人団体連絡協議会による川内庁舎周辺の清掃作業



町内会長と市長との懇談会

交流

国際交流

[ポート・エンジェルズ市]
(平成7年8月13日 姉妹都市盟約締結)

平成2年、ポート・エンジェルズ市に本拠地を持つボランティアミュージカルグループが本市で市民を交えた公演を開いたことがきっかけです。

以来、むつ国際交流協会等の民間団体が中心となって友好と親善の輪が広がり、更に市民レベルでの教育、文化、スポーツ及び経済など幅広い分野での交流活動の永続的な展開を図るべく、姉妹都市の盟約を締結しました。

現在も、ジュニア大使の派遣やポート・エンジェルズ市訪問団の受入れなどを中心に交流を図っています。



ポート・エンジェルズ市訪問団とホストファミリーの皆さん



ポート・エンジェルズ市の生徒に「あやとり」を教えているジュニア大使



訪問団とのさよならパーティーの様子（市長と訪問団長）

[会津若松市] (昭和59年9月23日 姉妹都市盟約締結)



会津若松市のシンボル「鶴ヶ城」

戊辰戦争の後、この地に移封され立藩した「斗南藩」と「会津藩」との歴史的な絆から、若松城築城600年を記念して昭和59年に姉妹都市の盟約を締結しました。斗南藩がこの地を治めたのはわずか1年数ヶ月のことですが、原野の開拓や斗南日新館による教育の精神は、その後の本市に大きな影響を与えました。



会津ゆかりの地「斗南ヶ岡」での会津若松市長、むつ市長による記念植樹の様子

保健・医療の充実

医療体制の充実

住民の医療ニーズに対応するための総合的な地域医療体制の整備充実を図ります。また、病院経営の健全化に向けた取組を推進します。



むつ総合病院

むつリハビリテーション病院 川内診療所

大畑診療所

脇野沢診療所

地域の消防機関、医療機関と連携し、有効な活用が図られるよう積極的に取り組みます。



ドクターヘリ患者搬送訓練



防災ヘリによる救急搬送

乳幼児から高齢者までの健康づくりを支え、また、総合的で質の高い医療体制の構築をより一層推進することにより、健康な心と身体を守る保健・医療の充実した地域づくりを目指します。

保健活動の充実

総合的かつ、きめ細やかな保健・予防対策を推進し、健康の増進や疾病の予防等に取り組みます。



日本赤十字の献血バス



街頭献血

健康づくり施策の展開

地域に密着したきめ細やかな健康づくり施策を推進し、生涯を通じた健康づくりに取り組みます。



むし歯予防教室



健康ウォーキング大会



市職員による食育指導

国民健康保険の充実

国民健康保険についての周知、啓発等の対策を推進するとともに、保険事業の適正かつ健全な運営基盤を確保し、被保険者へのサービスの充実を図ります。

福祉の充実

少子高齢化が進行する中で、誰もが安心して暮らすことのできる社会を構築するため、地域全体で支えあう福祉の充実を促進します。



むつ下北地域社会福祉大会・むつ市社会福祉大会



車椅子の寄贈



使用済み天ぷら油を使用して走る福祉車両 BDF (バイオ・ディーゼル・フューエル)



福祉展



むつ市福祉作文コンクール



福祉作文コンクール表彰式での発表



平成20年度地域福祉懇談会



第23回むつ市在宅介護者の集い

理由を表す
文と文
1 理由を表す
2 反対の意味
語と語のつながり
使用の方

教育の充実

まちづくりを次の世代に引き継いでいくための人づくりと、地域における特色ある文化を大切に、育てていくため、生き生きとした人々が地域にあふれ特色ある活動に取り組むことを支える教育の充実に取り組みます。

人間形成の上で重要な役割を持つ幼児教育の充実に取り組みます。



臨野沢保育園「運動会」



近川保育園「お遊戯会」

義務教育においては、むつ市教育プランに掲げる小中一貫教育を通じて「子どもが豊かな心を持ち、自ら学び、自ら考える力」を育成するため、教育活動の充実や教育施設の充実に取り組みます。



市民一人ひとりの生涯にわたる自己啓発やより良い地域社会を実現するための環境整備に努めます。



むつ市立図書館



移動図書館



弘前大学生涯学習連続講演会



放送大学公開講演会
(放送大学青森学習センターむつ校にて)



下北美術展 (児童・生徒の部)



公民館まつり「舞台発表」



下北美術展 (高校・一般の部)



公民館まつり「作品展示」



かきぞめ大会



夏休みこども講座「料理教室」

市民が健康を維持し、充実した生活を送るため、気軽にできるスポーツ・レクリエーションの普及を目指します。



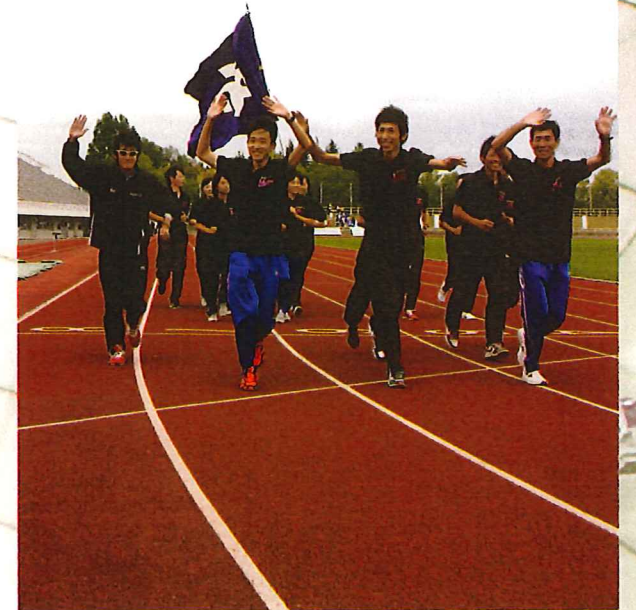
市民スキー大会



鹿島アントラーズによる少年サッカー教室



青森県民駅伝競技大会でのせりあい



総合6連覇をとげたむつ市チーム



むつ市下北自然の家



地域の多様な文化や産業活動、学校教育にかかわる取組など、さまざまな場面を通じて国内外の諸地域との交流を促進します。



交換留学生による台湾との交流



中田 久美さん、吉原 知子さんを招いて行われたバレーボール教室



プロ野球選手らによるむつ下北少年野球ふれあい教室



国際交流（フルブライト派遣団訪問）

【背景】 克雪ドーム内部
天候に左右されずスポーツを楽しめるようになり多くの市民に利用されています。

男女共同参画 社会の形成

男女が社会の対等な構成員として、家庭、地域、職場、政策決定の場など、あらゆる分野に平等に参画し、ともに社会の発展を支えていくような男女共同参画社会の形成を促進します。



女性議会



女性のつどい



安全で安心な 環境の充実

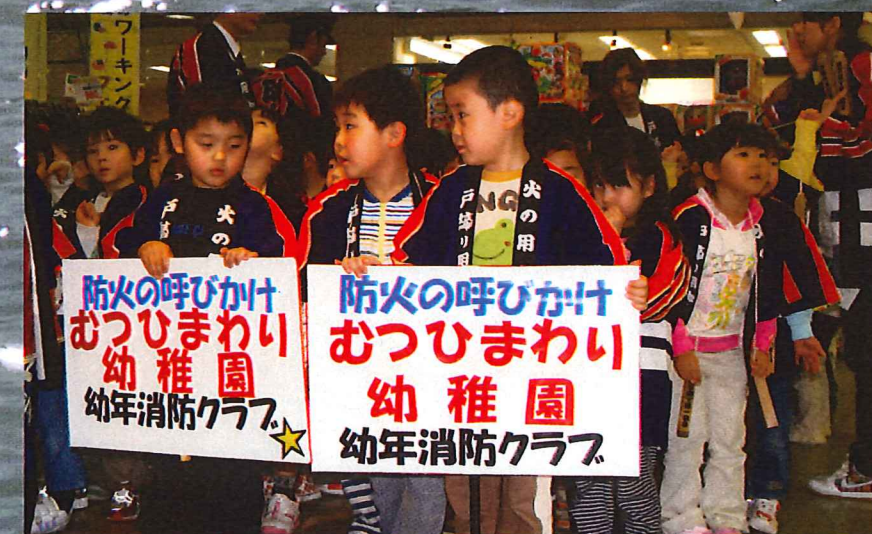
火災・地震・風雨水害などの自然災害や人為災害に備えるための防災対策、消防・救急体制の充実、さらには公害・廃棄物等への対策、防犯対策といった総合的な取組を推進します。



避難訓練



市職員による消火訓練



ひまわり幼稚園による防火の呼びかけ



警察署員による防犯パトロール



普通救命講習

新たな行財政システムの構築

議会



市長 宮下順一郎 副市長 野戸谷秀樹
教育長 牧野 正蔵 公営企業管理者 遠藤 雪夫

効率的な財政運営と高度な行政サービスの仕組みづくりを推進するとともに、広域的な視点での行政連携を進め、地方分権時代に対応できる充実した行財政システムの構築を目指します。



本市の議員は、平成21年4月1日現在、27人の議員で構成されています。議会は、条例や予算など市政に関するさまざまな審議を行い決定する、議決機関としての役割を持っています。また、議会は市政が適正に行われているかどうかを監視する役目も持っています。

一方、市長は議会の決定に基づき、市民のための仕事を実際に進めていく執行機関としての役割があります。市議会と市長の役割ははっきり区分され、お互い独立した対等の立場にありバランスを取りながら、市民のためにより良い市政の実現に努めています。



市議会議長
村中 徹也



市議会副議長
中村 正志



47年余にわたる役目を終えようとしている現庁舎

完成間近の新庁舎

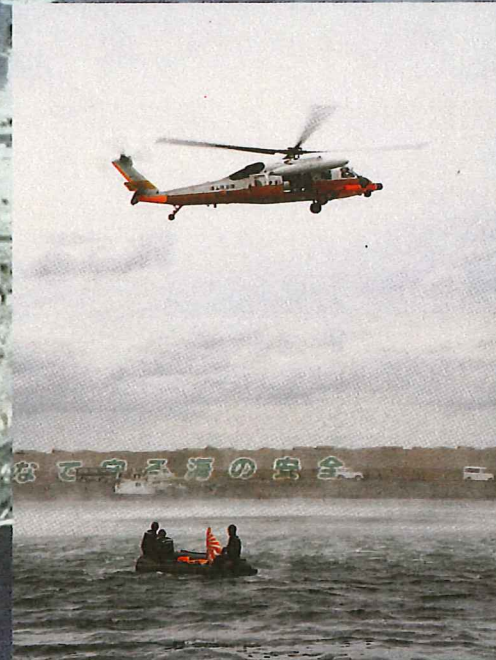


自衛隊

本市とゆかりの深い自衛隊は海上自衛隊大湊地方隊（大湊総監部）、航空自衛隊大湊分屯基地（第42警戒群）が北のまもりとして、また、災害救助活動やイベント支援など地域のために活躍しています。



練習艦隊大湊寄港



市防災訓練への協力



雪中特別救難訓練



ちびっ子・ヤング大会

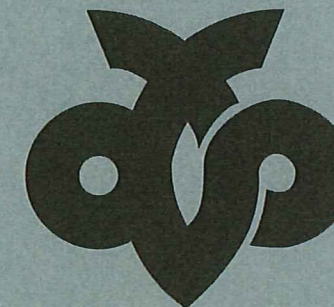


海上自衛隊大湊音楽隊によるコンサート



消防団観閲式でのパレード

資料編



土地・気象	1
人口	2
事業所	4
農林業	6
水産業	7
商工業	8
観光	9
福祉	10
健康	11
消防・事故	12
教育	13
文化財	14
施設	15
財政	16
選挙	17
行政・議会	18
年表	19